

■ロボットが寄贈されました プログラミング教育の推進に期待

17社の会員企業で構成されている「大崎町ものづくりネットワーク振興会」の皆様から、「大崎町の児童生徒のICT教育に役立ててほしい」という趣旨で、プログラミングロボット10機を令和3年11月26日(金)に寄贈いただきました。

これまで、このロボットを活用した授業を行う学校がありましたが、今後より多くの学校で活用されプログラミング教育の推進が期待されます。

プログラミング教育の必要性については、以下のように説明されています。



【寄贈されたプログラミングロボット】

将来の予測が難しい社会において、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要となる。

【文部科学省(学習指導要領 解説 総則編)平成29年 抜粋】

この情報処理能力を育成する一つとして、プログラミング教育が位置付けられています。学校教育の中では、ロボット操作だけでなく、様々な場面にプログラミングの学習が入っています。

今後、学校を参観する機会がありましたら、このような視点で参観されるのもよいかと思います。

まぶの窓おしえの庭

「腹落ちするまで考える」

No.69 大丸小学校 校長 牧口 廣久

「三寒四温」とは、冬、寒い日が3日続くと、その後は暖かい日が4日ほど続くことです。2月の異称は「如月(きさらぎ)」ですが、寒さのために衣を重ねることから「衣更着」ともいったり、陽気が発達する時節でもあるところから「気更来」ともいったりします。厳しい寒さが続く2月にも、春は着実に近づいてきているなあと感じます。

さて、南日本新聞の「ミナミさんちのクイズ」に次のような問題が掲載されていました。「10mの崖を10分間で2m登るが、その直後1mずり落ちてしまう場合、崖の上まで登る時間は?」。これを見て、以前、似たような問題に出合ったことを思い出しました。「カタツムリがいる。昼間に木を3m登るが、夜間には2m下がってしまう。高さ9mの頂上に達するには、何日かかるか」という問題です。「3m登って2m下がるのだから、1日1m。だから…」と決めてかかると正解にはなりません。答えは「7日」。7日目の昼に3m登れば頂上に着くことになり、夜に下がることはありません。この問題は、昭和初期の今から90年以上も前の算術に出てくる問題です。想像力を駆使して先を見越して考えないといけない問題です。また、なぜそうなるのか理由を求められます。式を立てて解くような問題ではないので、言葉で説明する能力が必要です。改めて筋道を立ててよく考えることの大切さを実感します。このような問題が次々と解けるようになると、算数だけでなく他の教科も楽しく取り組めるようになるのではないかと思います。ちなみに、その時の5・6年生にミナミさんちの問題を解いてもらいましたが、理由まで書けた正解者はいませんでした。腹落ち(納得すること、なるほどと思うこと)するまで考えることの大切さが必要なのだと思いました。

